

一般社団法人 日本臨床栄養代謝学会
2020年度 第1回定例理事会議事録要旨

日 時：2020年2月26日（水）12:00～15:30

場 所：国立京都国際会館 1階 104

出席者：理事長：東口高志

副理事長：佐々木雅也

監 事：寺本房子、土岐 彰、比企直樹

理 事：飯島正平、石井良昌、犬飼道雄、遠藤陽子、倉田なおみ、小谷穰治、
斎藤恵子、篠 聡子、清水孝宏、鈴木 裕、祖父江和哉、高増哲也、
中瀬 一、鍋谷圭宏、野上哲史、二村昭彦、福島亮治、丸山道生、
三原千恵、山中英治、吉田貞夫、鷺澤尚宏

事務局幹事：伊藤彰博

記 録：中川庸幸（事務局）

欠 席 者：特任顧問：平井敏弘、平田公一

監 事：田妻 進

理 事：小山 諭、室井延之

（敬称略：五十音順）

議 題：

I. 理事長挨拶

定款第5章第28条に則り、2020年度第1回定例理事会を開催することが宣言され、定款第5章第30条に則り、議長は理事長が務め、議事録署名は定款第33条に則り、理事長と出席した監事（寺本房子、土岐 彰、比企直樹各監事）となることが確認された。また、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、第35回学術集会については集合型開催を中止したこと、また、NST 専門療法士受験必須セミナー、更新必須セミナーも e-learning での開催形態に変更したことが報告された。本日開催の第7回定時社員総会では、本緊急対応事案についての方針を審議するとの説明がされた。本会議に顧問弁護士、公認会計士が同席することが説明され、各先生方の紹介の後、議事に入った。

II. 第35回学術集会会長挨拶

佐々木雅也会長から今回の集合型開催中止決定は、危機的な社会状況を踏まえた苦渋の選択であったが、新型コロナウイルスの感染拡大防止に向けた政府の方針に沿ってのぎりぎりの決断であったこと、これまで開催に向けてご協力いただいた先生方に対して謝辞が述べられた。

III. 前回理事会議事録の確認について

前回理事会議事録が示され、議事録署名手続きに入ることが報告された。

IV. 庶務報告について

事務局より2019年12月31日時点の会員動向について、報告された。東口高志理事長より逝去会員の報告がされた。また、TPNの創始者で ASPEN の初代理事長である Stanley J. Dudrick 先生の訃報を受け、哀悼の意が述べられ、理事会で黙祷が捧げられた。

続けて、2019年度事業報告および2020年度事業計画が提出され、既に持ち回り理事会にて全会一致で承認を受けたことが報告された。2020年度の新規事業としては、JSPENプロジェクト事業として、P004：「静脈経腸栄養テキストブック」改訂プロジェクトに続き、以下の新規プロジェクトを立ち上げることが説明された。P005：GLIMプロジェクト、P006：新医師・歯科医師セミナー作成プロジェクト、P007：ナショナルデータベースプロジェクト

■2020年12月31日現在 ※宛先不明70名含む、退会・休会除く

会員種別	2018年12月31日	2019年12月31日	増減
名誉会長	2名	2名	±0名
名誉会員	43名	43名	+0名
特別会員	48名	50名	+2名
代議員	237名	232名	-5名
学術評議員（代議員除）	395名	413名	+18名
正会員	20,401名	21,216名	+815名
寄贈会員	7名	8名	+1名
総数	21,133名	21,964名	+831名

■職種別

医師	4,682名	管理栄養士	6,084名	言語聴覚士	592名
歯科医師	405名	栄養士	74名	歯科衛生士	122名
看護師	4,036名	臨床検査技師	686名	診療放射線技	3名
准看護師	3名	理学療法士	433名	その他	732名
薬剤師	3,992名	作業療法士	120名	合計	21,964名

■2019年分会費納入率 ※宛先不明・退会・自動退会含む

会員種別	納入者数	未納者数	納入率(2018年)
代議員	230名	2名	99.1% (97.8%)
学術評議員	406名	7名	98.3% (93.6%)
正会員	20,187名	1,029名	95.0% (87.2%)
総数	20,823名	1,038名	21,861名

V. 会計関連事項について

事務局より2019年度会計収支の説明がされ、福島理事より、2020年度一般会計・特別会計・各委員会の予算書（案）の説明がされた。

なお、本議案は、既に持ち回り理事会にて全会一致で承認を受けたことが報告された。

第34回学術集会会計収支報告については、福島亮治前会長（第34回会長）より報告がなされ、理事会をはじめとした関係各位に謝辞が述べられた。

VI. 第35回日本臨床栄養代謝学会学術集会集合型開催中止後の対応について

佐々木雅也会長より集合型開催の中止決定案内後に寄せられた問い合わせについて報告がされた。事前参加登録費の返金、学術集会参加に関わる経費に関する確認、学会発表履歴などの業績対応、各資格認定(更新)のための参加条件に関する代替要望など多岐にわたる問い合わせ届いており、本理事会として、これらの対応について協議し、以下の方針を決定した。

- ・事前参加登録費の返金は、参加証・領収証は事前に送付されているため、第35回学術集会の参加履歴として認め返金はしない。

- ・当日参加登録を予定されておりました皆様には、事前参加登録された方と同じ情報の提供と資格申請等の参加履歴提供のために、希望者を対象とした事後参加登録を予定する。事後参加登録は約1か月間実施予定とする。
- ・各種発表・司会・座長などの履歴を JSPEN の業績として、本学会の学術評議員・代議員・認定医・指導医・臨床栄養代謝専門療法士などの各制度において申請利用する場合には、第35回学術集会での参加履歴を有効とし、事前もしくは事後での参加登録を必須とする。また、第35回学術集会での履歴を JSPEN の各申請において業績として申請される場合には、参加証の提出を求める。なお、発表履歴の正確な保存の手続きも併せて確認体制を検討していくことになった。
- ・一部の講演プログラムは、参加登録されました皆様を対象に、WEB サイト上で閲覧できるよう準備を進める。
- ・第35回学術集会で開催予定であった総会・学術評議員会の取り扱いについて学術評議員の維持条件のひとつに3回連続欠席で資格喪失条件がある。今回の中止の取り扱いについて確認がされた。

1) 代議員選出規則における改訂

第7条 遡る3年間に2回以上、学術評議員会に出席していること。

とあるのを

第7条 連続3回のうち2回以上、学術評議員会に出席していること。

と変更する。

- 2) 定款施行細則第24条3項の欠席条項への対応：学術評議員は、正当な理由なく連続して3回学術評議員会を欠席した場合には、その資格を失う。

①第35回学術集会時の総会・学術評議員会の開催はカウントしない。

②今回参加予定で来年参加できず、連続3回欠席となった場合には、以下の救済対応を行う。

2021年の第36回学術評議員会時の総会・学術評議員会に参加できず、学術評議員会資格を喪失となる形を対象に、理事会へ事由書を提出する救済措置を取る。申請条件は、第35回学術集会への事前・事後登録を行っていることを条件とし、事由書と参加証のコピーを提出する。

以上の対応を公示し学術評議員資格制度の救済措置とすることが承認された。

また、本協議中に首相声明が出され、本日から2週間、大規模イベントの開催自粛要請があったとの情報が入り、本理事会としては、危機的な社会状況を踏まえた苦渋の決断として、感染拡大防止に向けた政府の方針に沿ってのぎりぎりの判断を行い、誠意をもって参加者、会員の皆様に対応していくことが確認された。今後緊急の対応が必要になる場合も想定されることから、そのような状況になった場合には、拡大総務委員会に対応に一任いただき、理事会には事後報告とさせていただきます。

VII. 「日本静脈経腸栄養学会雑誌」最終号に掲載された掲載広告内容に対する対応について

「日本静脈経腸栄養学会雑誌」は第34巻5号をもって最終号となったが、同号において表紙のデザインはそのままに巻号は継続し、別に発行されている雑誌名を移行して発行するという広告が、本会に無断で掲載されていた。編集委員会にも事前に知らされていなかった。当会の後継雑誌であると認識された複数の会員の方々から、「購読必須であるのか」「会費とは別に購読料を徴収するのか」などのご指摘をいただき、会員の皆様が混乱する事態となったため、事実確認と緊急の周知対応を行った。会員の皆様には、紙ベースの雑誌発行は終了し、広告にある当該雑誌は当会と無関係であること、至急に可能な限りの然るべき対処を行ったことが報告され、承認された。本件については、緊急対応を迫れる事態も想定されることから、状況に応じて拡大総務委員会扱いとして対応を一任することが承認された。本理事会としても会員の誤解を招かぬよう一体となって本件に対応していくことが確認された。

VIII. 各種委員会・部会 審議事項

総務委員会 広報 WG(吉田理事)

- ・JSPEN「Newsletter」No.2 企画案について

機関誌「日本静脈経腸栄養学会雑誌」の発行終了後の連絡手段として Newsletter の発行を原則年 4 回発行することになり、創刊号を 2020 年 1 月 1 日に発行したことが報告された。併せて、No.2 以降のコンテンツ案が示され一部修正の上、承認された。No.2 以降は、発行形態は原則 WEB 上とし、スマートフォンなどの閲覧も考慮していくことになった。

総務委員会 代議員・学術評議員選考 WG(野上理事)

- ・代議員立候補者（新規）の選考結果について
- ・代議員立候補者（再任）の選考結果について
- ・理事会推薦による代議員審査申請について
- ・学術評議員申請者の選考結果について

2020 年 1 月 6 日に代議員・学術評議員選考 WG を開催した。今回は代議員の改選年であり、新規・再任候補者および学術評議員の審査を行った。新規代議員候補者として 30 名、再任代議員候補者として 36 名、新規学術評議員候補者として 94 名を選考した。また、2019 年より新設された理事会推薦による代議員審査申請において選考された 6 名についても確認を行った。

- ・申請書類の不備対策について

申請者の多くに提出書類の不備があり、正しく提出頂くため具体的な方策について提案がされ、来年度以降反映していくことになった。

- ・代議員定数について

今回の申請で、代議員は合計 260 名程度となる見込みである。代議員選出規則の代議員数(300 名以内)を満たすが、全体の会員数も増加しているため、定数増について引き続き検討していくことになった。

財務委員会（福島理事）

- ・旅費・謝金支給規程(内規)の改訂について

学会名称に変更に伴い改訂とこれまでの旅費精算手続きにおいて、これまで事務的にも判断を迷う事例にも対応するため、一部改訂案が提出され、以下の改訂内容について承認された。

○自宅もしくは所属以外から用務地へ向かう場合には経路も含め事前申請とする。

○交通費経路の算定は、原則として公共交通機関を利用し最も合理的かつ経済的な、通常の経路及び方法により計算し支払う。航空路と新幹線の経路の選択は、所要時間(4 時間程度)と交通費(新幹線普通運賃を目安)として、新幹線経路での算定を基準して判断する。

○講師謝金については、1 回担当として算定していたが、各教育事業の形態(担当時間)により拘束時間が異なるため 10 分 3,000 円の講師謝金を算定形式へ変更する。

○労務提供スタッフへの謝金の部分は、削除する。(タスクフォース、ファシリテーター役がその任を負う)

○本内規の改訂は、総務委員会、規約委員会、財務委員会、教育委員会での討議とし、理事会の承認を経ることとする。

なお、教育事業責任者の謝金の廃止案については、各業務内容、拘束時間なども含めて再検討することになった。

財務委員会（福島理事）・規約委員会（石井理事）

- ・外部委員の委員会出席に伴う謝金について

倫理委員会およびガイドライン委員会において外部委員の就任が必須となる。対面式やWEB会議など形式があるため、理事会での確認を経ることが前提となるが、出席を依頼するにあたり招聘状等での発行で謝金の明記も必要なことから、支払いの定義について以下のとおり定めた。但し、WEB会議の単価については、総務委員会で状況を見ながら適宜見直していくことになった。
(外部委員への支給)

第12条 外部委員への謝金は、1日委員会に参加した場合には、原則として20,000円を支給する(会議時間3.5時間未満は半日として10,000円)。WEB会議に参加した場合は1回3,000円を支給する。(源泉徴収税別+交通費実費)

将来構想委員会(鍋谷理事)

・認定医・指導医・認定歯科医更新資格の変更について

最近の認定教育施設数の減少は、今後のNST専門療法士の新規受験に支障をきたすだけでなく、わが国のNST活動の進歩を妨げる可能性がある。その原因の一つとして、認定医が資格を更新できずに認定施設でなくなってしまったケースが多々あり、その更新条件の変更について提案がされ、将来構想委員会、認定・資格制度委員会、NST委員会、教育委員会、倫理・利益相反委員会として関与する拡大持ち回り委員会で審議し、変更案について合意を得たため、理事会での審議を経て承認がされた。さらにNST稼働施設認定の要件変更と合わせ、上記4委員会からの提案として、認定医・指導医制度規約の変更について、第7回定時社員総会へ提出することが承認された。指導医・認定医・認定歯科医更新条件の変更の概要は以下のとおり。

- 1) JSPEN 栄養マスターコース、NST ベーシックコースの講師経験は、規約に定めた他のセミナー講師同様に、指導医・認定医・認定歯科医の更新条件として追加する。
- 2) JSPEN 栄養マスターコースは、当会の医師・歯科医師教育制度におけるアドバンスコースに位置するため、この参加は学術集会参加要件の代替の位置付けとする。
- 3) 以上の項目を加え、現行の学術集会3回以上の参加を定めた項目については、「4. 本学会学術集会に3回以上参加していること。うち1回は、本会学術集会時の指定研修プログラム[※]かNSTフォーラムへの参加または、JSPEN 栄養マスターコース受講を充てることができる。」

倫理・利益相反委員会(鷺澤理事)

・倫理・利益相反委員会 外部委員の就任依頼について

正式な倫理審査体制には、外部委員の就任が求められる。IRB 導入もあり倫理審査依頼は増えており正式な倫理審査体制の構築のため、2名の先生方の就任提案がなされ承認された。

塚田敬義先生(岐阜大学医学系倫理・教授)

島本幸一郎先生((株)前川製作所財務法務知財部門法務グループ)

支部統括委員会(犬飼理事)

・新支部体制の移行について

1)2020年1月1日より、支部会は8支部体制となり、旧世話人と学術評議員・代議員(2020年2月理事会承認者を含む)が各支部の世話人に就任する。支部長および世話人に委嘱状お送りするスケジュールが説明され、承認された。

(1)北海道支部:支部長 巽 博臣先生(北海道)

(2)東北支部:支部長 宮田 剛先生(青森、岩手、秋田、宮城、山形、福島)

(3)関東甲信越支部:支部長 鈴木 裕(栃木、群馬、埼玉、茨木、千葉、新潟、長野、山梨)

(4)首都圏支部:支部長 鷺澤尚宏先生(東京、神奈川)

(5)中部支部:支部長 清水敦哉先生(静岡、愛知、三重、岐阜、富山、石川、福井)

(6)近畿支部：支部長 飯島正平先生（京都、奈良、大阪、和歌山、滋賀、兵庫）

(7)中国四国支部：支部長 三原千恵先生（鳥取、島根、山口、広島、岡山、香川、愛媛、徳島、高知）

(8)九州支部：支部長 野上哲史（福岡、熊本、長崎、大分、佐賀、宮崎、鹿児島、沖縄）

2)2020年12月より8支部体制の編成を行う。山梨県は首都圏支部、長野県は中部支部に変更した新支部区分とすることが承認された。

(3)関東甲信越支部（仮称）：（栃木、群馬、埼玉、茨木、千葉、新潟、長野、山梨）

(4)首都圏支部（仮称）：（東京、神奈川、山梨）

(5)中部支部：（静岡、愛知、三重、岐阜、富山、石川、福井、長野）

・各支部の事業支援体制について

各支部は事業責任者を支部長とし、事業計画書および予算案を理事会に提出し、承認を得られた場合は、支部事業を開始する。学会本部は各支部HPに事業をアップするし、News letterに掲載するなどの事業支援を行う体制へシフトしていくことが承認された。

・支部会での事業拡大をにらみ、本部と支部会での謝金規定の統一を行うまた同時に旅費規程の変更も行うことになった。

・支部学術集会について

①2020年度の支部会は従来通りの方法で行う。ただし支払い規定は新方針を順守する。

②2020年度より支部学術集会においては、収支予算書と収支決算書を提出する。

・参加費について

①会員と非会員は必ず分けた設定とする。

②年次学術集会は大会長が参加費・事前登録参加費を定める。

③支部学術集会参加費（事前登録）は、会員3,000円（会長判断）・非会員4,000円（会長判断）とする。

・懇親会：会議室以外で飲食を伴う会について

年次学術集会

拡大プログラム委員会（会長招宴）

情報交換会（全員懇親会）

・参加者対象：会員・非会員を問わない、名誉会長・名誉会員・特別会員・役付きの非会員は招待
支部学術集会

世話人会懇親会・全員懇親会：行わない

・協力者に対する懇親会：

反省会・打ち上げ：行わない

以上の新支部制度の活動方針の説明がなされ承認された。

教育委員会（鍋谷理事）

・JSPEN テキストブック新刊の発行について

静脈経腸栄養テキストブックは、この2～3年での新しい情報の追加の必要性、受験必須セミナーでの教科書としての内容の充実の必要性、さらに学会名の変更もあったことから、全面的に改訂新版を出すことが前回理事会で承認された。本件については、JSPEN プロジェクト P 004として、前回担当した佐々木副理事長と教育委員長が責任編集を担当し、専門性を鑑みたプロジェクトメンバーとして、小山 論理事、吉田貞夫理事、中瀬 一理事、さらに千葉正博代議員に加わっていただき、編集業務を迅速に行い、来年2021年の学術集会時に発売を目指すことが承認された。執筆者はプロジェクトチームで決定して、代議員・学術評議員の先生方に執筆を依頼する手続について承認された。

・部会のアドバンスコースの開催計画について

栄養士・管理栄養士部会審議事項参照のこと。

・第 18 回 LLL ライブコースの中止について

2020 年第 1 回目となる第 18 回 LLL ライブコースは、教室での長時間受講となることから、第 35 回学術集会の会場開催の中止を受けて、同様に中止の判断とすることが承認された。

・第 7 回 JSPEN 栄養マスターコースの中止について

2020 年第 1 回目となる第 7 回 JSPEN 栄養マスターコースは、密室での長時間受講となることから、第 35 回学術集会の会場開催中止を受けて、同様に中止の判断とすることが承認された。

専門能力開発委員会（鍋谷理事）

・部会のアドバンスコースの開催計画について

部会独自のアドバンスコースは、各部会のリクエストに応じて開催することが可能である。栄養士・管理栄養士部会より開催希望申請が提出されたことが報告された。

栄養士・管理栄養士部会審議事項参照のこと。

専門能力開発委員会 ①栄養士・管理栄養士部会（斎藤理事）

・栄養士・管理栄養士部会アドバンスコースの企画と開催について

2020 年 11 月開催として、テーマ：症例から学ぶリサーチクエスションと研究法(仮題)、目的：栄養管理の実践力向上とクリニカルクエスションを公表、論文に結び付ける力を身につける(仮)がとの開催概要の提案がされ、人選等教育委員長と相談し進めていくことで、承認された。

専門能力開発委員会 ②薬剤師部会（二村理事）

・2020 年学術集会時の日病薬病院薬学認定薬剤師制度研修単位シール配布について（運用案）

日病薬病院薬学認定薬剤師制度研修単位シールの配布に関して、事前登録、本人確認などの手続きを経ることになり、学術集会会場での対応・運用方法について検討を行った。第 35 回学術集会では集合型開催が中止となったため、本運用については第 36 回学術集会に向けて移行・継続検討とすることになった。

・薬剤師部会アドバンスコースの企画と開催について

本年度開催予定であり、教育委員会での審議を経て理事会に提出予定であることが報告された。

専門能力開発委員会 ③看護師部会（篠理事）

・看護部会アドバンスコースの企画と開催について

本年度の開催は見送り、企画内容等を継続して協議していくことが報告された。

認定・資格制度委員会 認定医・指導医・認定歯科医・専門療法士制度（福島理事・三原理事）

・認定医・指導医制度終身認定年齢上限の変更に伴う諸規約・規程の変更について

将来構想委員会からも審議事項の議案提出があったとおり、認定教育施設の減少傾向は早急に改善しなければならない重要案件となる。これまでの更新状況から、実際に満 65 歳以上となっても認定医・指導医として所属施設で現職であり、NST 活動を継続されておられる先生方も多数おられることから、2017 年の移行措置との整合性も考慮し、終身認定の年齢上限を満 65 歳から満 70 歳へ変更する案が提出された。併せて本変更を伴うことにより、認定医・指導医の勤務形態が多少流動的になる可能性があるため、栄養サポートチーム専門療法士認定規程における認定教育施設条件についても一部変更し、教育施設の維持を図るとともに実績のある指導責任者資格の継続と後進の育成に努める内容とする一連の変更内容について承認がされた。

NST 委員会（中瀬理事）

・NST 稼働施設認定について

今年の NST 稼働施設認定審査について以下の報告がされ承認された。

(1) 新規：申請 19 施設…合格 19 施設(表 1)

(2) 更新：申請施設数 358 施設…合格 344 施設(表 2)、不合格 10 施設・辞退 4 施設(表 3)、未申請 115 施設(表 4)

・NST フォーラム参加クレジット制の導入について

前回理事会で NST 稼働認定施設の質を担保する目的の一環として、更新要件に NST フォーラム参加証の提出を追加した。更新条件の追加として、次の更新認定申請期日までに NST 稼働施設認定の NST 委員会のメンバーの誰かが異なる年度の NST フォーラムへ 2 回以上の参加を条件とする案が提出され、承認された。また本規程の変更を NST 稼働認定施設新規・更新申請における規程に追加記載し、第 7 回定時社員総会の審議事項として提出することが確認された。

・NST 稼働認定施設要件の変更と規定への追加について

1) NST 稼働認定施設更新要件の追加事項：

NST 稼働認定施設の質の担保を目的として更新申請時の必要要件に学術集会における NST フォーラム参加を更新条件クレジットに加える。具体的には認定(更新認定)年から更新申請年までの約 4 年間の間に異なる年度の学術集会の NST フォーラムに NST 稼働認定施設 NST 委員会のメンバーが 2 回以上出席とする。NST フォーラム時には、参加証明書を発行し、そちらを更新時に参加証明書を提出するとの改訂条文が提出され承認された。

2) NST 稼働施設認定規程の改訂内容：

(1) 学会名称変更に伴う改訂

(2) NST フォーラムの参加クレジットに関する条文の追加

編集委員会（佐々木副理事長）

・採択後即時掲載制度について

e-Journal「学会誌 JSPEN」に掲載する論文は、採択後 6 カ月以内の掲載を原則に、採択順に掲載されている。掲載論文は資格取得等のための実績となるため、著者の利便性を考慮し、採択された論文の即時掲載をするための有料制度を新設について提案がなされた。金額については、将来値上げの方向も考慮し、30,000 円を導入時の金額として設定し、制度の開始について承認がされた。

・優良査読委員の表彰について

査読期限を守り、かつ優れた査読をした査読者について、編集委員会にてボードを担当している 4 名が 1 名ずつ、計 4 名の査読者を優良査読委員として推薦して学術集会で表彰する制度を新設し、第 36 回日本臨床栄養代謝学会学術集会から表彰を開始することが承認された。

用語委員会（中瀬理事）

・用語解説の執筆方針に関して

用語解説の執筆分担について委員会内だけでの執筆では負担、継続性などの問題もあるため、委員会から委員以外の先生にも執筆依頼案が提出され承認された。担当委員は、共同著者の位置づけで投稿までをマネジメントを行う役割分担となる。

学術集会検討委員会（犬飼理事）

・2024 年 第 39 回学術集会開催地について

2023 年【第 38 回】(神戸)順での開催となるため、2024 年は関東地域での開催を優先し、会場調査を進めた。今回、横浜(パシフィコ横浜)が、以下の開催期間での会場確保ができたため、

2024年の有力開催地として提出され、社員総会へ諮ることが承認された。

【開催期間・開催地（会場）】

開催期間：2024年2月29日(木)～3月1日(金)

開催地：横浜（パシフィコ横浜：国立大ホール、会議センター全館、展示ホールAB、アネックスホール）

- ・第33回日本外科感染症学会総会学術集会合同企画開催について
第33回日本外科感染症学会総会学術集会の長谷和生会長より別紙の合同企画開催の依頼があり、本企画に参加することが承認された。
- ・日本集中治療医学会・日本透析医学会との合同企画について
一般社団法人日本透析医学会 中元秀友理事長より別紙の3学会合同の学会委員会企画として、合同企画の提案があり、本企画への参加することが承認された。
- ・第1回日本フットケア・足病医学会年次学術集会合同シンポジウムの依頼について
第1回日本フットケア・足病医学会年次学術集会の日高寿美会長（湘南鎌倉総合病院 腎臓病総合医療センター）より合同シンポジウムの依頼があった。90分から120分の枠で重症下肢腫瘍・壊疽また下肢大切断患者に対する栄養シンポジウムの開催を希望されており、本企画への参加について承認された。
- ・日本心臓リハビリテーション学会・日本病態栄養学会とのジョイントセッションの開催について
日本心臓リハビリテーション学会 牧田 茂理事長、第26回日本心臓リハビリテーション学会学術集会 筒井裕之会長より、日本心臓リハビリテーション学会、日本病態栄養学会とのジョイントセッションに関する依頼があり、本企画への参加について承認された。人選については、理事長と学術集会実践支援委員長で協議していくことになった。
- ・第57回日本リハビリテーション医学会学術集会合同企画依頼について
第57回日本リハビリテーション医学会学術集会 島田洋一会長より別紙の合同企画の依頼があった。テーマ案：栄養評価・療法のリハビリテーション医療への応用として提案があった。先方からは企画担当者の提出があり、第56回学術集会も合同企画を実施していることから、内容を確認し承諾の返事を行った。企画担当者については、2019年第56回学術集会でご担当いただいた吉田貞夫理事にお願いすることになった。
- ・これまで協議・決定した学術集会および支部学術集会における運用方針について
 - 1) 他学会との合同シンポジウムについて
合同シンポジウムは、双方の学会戦略や学術集会会長の企画立案、両学会の理事会の合意を必要とする事業の一貫としての開催など、様々なケースでの開催が考えられるため、これまで本委員会と理事会での協議を経て、当会としての対応方針を確立したが、当会側と相手方の認識が異なる場合もあり、認識の相違・誤認による混乱を防ぐため、以下の定義づけ、プロセスについて整理を行った内容が提示され、承認された。
 - (1) 学術集会会長が、合同シンポジウムを開催したい場合
 - (2) 他学会より当会学術集会で合同シンポジウムの依頼がある場合
 - (3) 他学会より他学会学術集会で合同シンポの依頼がある場合
 - 2) 合同シンポジウムにかかる費用について
上記の承認手続きを経たのち具体的な対応に入るが特に招待に伴う経費負担については、明確でない対応も多くあるため、ある程度の本会の指針について協議し、以下の方針を承認した。
 - (1) 会場・設備費などの開催費用は、開催側の学会で負担し、相手側に経費負担は求めない。
 - (2) 当会学術集会の合同シンポジウムで、相手学会会員が依頼により発表・座長などを行なう場合、当会の非会員であれば規定に従って対応する。
 - (3) 相手学会との合同シンポジウムにおいて、相手学会学術集会で発表・座長などを行なう場

- 合、事前に経費負担の有無について申告いただく。
- (4) 相手学会の会員である場合、特に対応は求めない。
- (5) 相手学会の非会員である場合、参加費・交通費・謝金・宿泊費を相手学会から支払うよう依頼する。万が一、支払わない場合は当会の規定に準じて支給する。
- 3) 学術集会の学生参加について
学術集会・支部学術集会ともに、学生は学部学生と定義することが承認された。
- 4) 学術集会・支部学術集会での演題発表資格について
学術集会の演題発表は、指定演者であっても筆頭演者・共同演者も含めて原則会員である必要があることが確認され承認された。
- 5) 支部学術集会の演題発表は、非会員資格での発表を認める。
- 6) 学術集会に関わるアワード選考について
別紙資料に基づき、公示、応募資格、選考、発表、表彰（賞牌・副賞）について確認した。
- 7) 海外招聘者の対応について
海外招聘に関わる招聘条件について定義し、資料に基づき承認された。
- 8) 学術集会と支部学術集会の待遇について
学術集会および支部学術集会における名誉会長・名誉会員・特別会員・代議員・学術評議員・会員・非会員（招待者）等の待遇について定義し、資料に基づき承認された。
- ・学術集会のコンベンション選定について
 - 1) 第 37 回日本臨床栄養代謝学会学術集会のコンベンション選定をコンペ方式で開催した。
 - 2) 第 38 回日本臨床栄養代謝学会学術集会以降のコンベンション選定についても本年同様のコンペ方式で行うことが承認された。
 - ・学会本部が行うセミナーのコンベンション委託について
学会本部の業務量軽減を目的に、本部が主催するセミナーを部分的・段階的に継続検討しながらコンベンションに委託するケースも検討していくことになった。選定方針については継続審議となった。

学術集会実践支援委員会 フェローシップ選考 WG（三原理事）

- ・副賞授与の取り扱いについて
2019 年 12 月にフェローシップ 2018 の受賞者より ASPEN2020 に参加することについてご連絡があった。演題を応募しているとのことで、まだ演題採用の可否については不明であるがフェローシップ賞の副賞授与資格(期限)に関する確認であった。副賞授与のためには、本会学術集会での受賞者記念講演の翌々年(2020 年)春期までに開催される ASPEN もしくは ESPEN に演題を応募することになっているためフェローシップ賞受賞者に授与される副賞の申請期限について、学会への報告期限と本人への通知からの期限に認識のずれが生じることがあったため整理を行い ASPEN2020 までには有効とすることが承認された。

臨床栄養コンセンサス検討委員会 腎領域 WT（野上理事）

- ・腎領域 WG メンバーの追加について
腎疾患領域 WT のメンバーとして田中啓之先生（横須賀共済病院腎臓内科）に腎疾患 WT 委員への就任要請したことが報告され、承認された。

IX. 各種委員会・部会 報告事項

【総務統括部門】

総務委員会（飯島理事）

- ・第 11 回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会ジョイントプログラムの協力依頼について

第 11 回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会 田妻 進大会長よりジョイントプログラムの協力依頼があり承諾の回答を行った。

- ・ 2020 年度医師・歯科医師とメディカルスタッフのための栄養管理セミナー後援名義使用について 2020 年度の医師・歯科医師とメディカルスタッフのための栄養管理セミナーの後援名義使用依頼があり承諾の回答を行った。
- ・ JDDW2020「メディカルスタッフプログラム」広報活動へのご協力について 2020 年 11 月 5 日（木）から 11 月 8 日（日）に神戸で開催される、第 28 回日本消化器関連学会週間（JDDW2020）において、「メディカルスタッフプログラム」が企画されているため、昨年同様に広報協力について承諾の回答を行った。

総務委員会 広報 WT（吉田理事）

- ・ JSPEN「Newsletter」発行について 「日本静脈経腸栄養学会雑誌」の発行が 12 月 25 日発行の第 34 巻 5 号で終了となった。これまで機関誌に掲載してきた学会会告など会員への連絡がホームページ、メールニュースのみとなるため、新規の連絡手段として JSPEN「ニュースレター」を創刊した。第 2 号は 4 月発行を予定し準備を進めていくことが報告された。

規約委員会（石井理事）

- ・ 2019 年度活動報告について 2019 年に本委員会に確認依頼があった規約策定内容について報告がされた。

倫理・利益相反委員会（鷲澤理事）

- ・ 2019 年度倫理審査報告について 2019 年は 10 回の持ち回り倫理・利益相反委員会を開催し審査を行ったことが報告された。

【渉外部門】

国際委員会（小谷理事）

- ・ JSPEN 関連国際学会の報告について
 - ASPEN 2019 Nutrition Science & Practice Conference
 - KSPEN 2019 The 18th Annual Congress of KSPEN & 2019 International Symposium(KSPEN 2019)
 - 第 48 回世界外科学会議(WCS2019)、国際外科代謝栄養学会(IASMEN)
 - ESPEN 2019 41st ESPEN Congresson Clinical Nutrition & Metabolism
 - PENSA Congress 2019
- ・ ESPEN-JSPEN meeting 2019 について ESPEN-JSPEN meeting 2019 が以下のとおり開催された。 ESPEN 理事長の Rocco Barazzoni 先生より welcome message と JSPEN の活動に対して謝辞が述べられた。JSPEN からは学会名称が変更されること、ガイドライン、コンセンサス本の作成、各プロジェクトなど、JSPEN の事業活動の紹介を行った。
- ・ ESPEN Winter Meeting 2020 について 2020 年 1 月 17 日～19 日にニース(フランス)the Westminster Hotel で開催されたことが報告された。理事長・国際委員長のスケジュール調整が叶わない状況となり、委員の福島理事に代理でご出席をお願いした。「ESPEN NEMS Meeting」が並列で開催されたことが報告された。
- ・ NEMS (Nutrition Education in Medical Schools) Meeting について NEMS は、各国の医科大学、医学部において栄養療法に関する教育を広めることを目的に ESPEN が実施している事業であり、今回の Meeting においてはこの事業に関し、ヨーロッパでの教育

における規則および規定を共有するための試験的なプロジェクト開発を目的としている。日本の現状についての発表も依頼されていたため、東口理事長・国際委員会で共有し、日本の現状と必修科目のモデルについて発表した。必修科目としては JSPEN、日本外科代謝栄養学会の NST 医師教育セミナーの内容をベースに報告を行ったことが紹介された。

国際委員会 nutritionDay WG (小山理事欠席のため小谷理事)

- ・ nutritionDay に関する昨年の進捗状況について
nutritionDay の研究計画書や説明同意文書の改訂を行い、倫理委員会に変更を申請し承認を得た。学会ホームページ上でも nutritionDay の WEB を更新し、会員へ情報発信を行った。2019 年は 11 月 7 日が nutritionDay と定め、日本の施設に登録及び調査依頼を行った。また、ESPEN 2019 (クラクフ (ポーランド)) の際に開催された nutritionDay National coordinators meeting に出席し、参加各国との交流及び情報交換を行った。

保険委員会 (飯島理事)

- ・ 2020 年度診療報酬改定に関する申請について
2020 年度診療報酬改定に関して、外保連を通じて学会新規・改正要望を下記の通り提出、厚生労働省よりヒアリングを受けた。中医協医療技術評価結果としては見送りとなった。
【新規】栄養管理連携加算 1・栄養管理連携加算 2
【改正】C105-3 在宅半固形栄養経管栄養法指導管理料の改正(適応拡大)
今回の改定に関しては、パブリックコメントを求められて、厚生労働省へ提出を行った。
- ・ アミノ酸を含む輸液製剤の禁忌変更に関する要望について
第 1 回持ち回り理事会で承認いただいた。「透析患者に静脈栄養製剤を使用する際の注意事項 191210 案」を厚生労働省へアプローチしていくとの報告がされた。
- ・ 要望書の提出について
 - 1) 不採算品再算定(輸液製剤協議会)
3 月初旬薬価改定予定。基礎的医薬品において消費税時の改定での引き下げはなかった。
 - 2) アナモレリンの早期適応所得に関する要望書(小野薬品工業)
今後の予定は未定
- ・ 「ホームヘルパー等の介護職や介護福祉士等の認定特定行為業務従事者による経管経腸栄養法の接続などの実施における対象となる手技の表現を現在の限定的な表現から食道ろうなどを含めた表現に緩和する嘆願書の提出」について
現在、胃ろうなどからの経腸栄養管理法における栄養剤系との接続などは、平成 23 年 11 月 11 日に発令された省令によりホームヘルパー等の方々が可能となっている。しかし、食道ろうはこの省令では対象となっていない。食道ろうは、現在認められている胃ろう等と管理上はほぼ同等と考えられ、標記の件について、関係学会にて厚生労働省への共同要望書の提出が検討されている。当会が中心となり要望書を提出することが関係団体からも望まれており、まずは保険委員会事案として委員会内で検討し、理事会の議も経て対応を進めていくことが報告された。

【教育・奨励部門】

専門能力開発委員会 栄養士・管理栄養士部会 (斎藤理事)

- ・ 栄養士・管理栄養士部会会議について
2019 年は以下のとおり部会を開催したことが報告された。
第 1 回：2019 年 2 月 13 日 グランドプリンスホテル新高輪 国際館パミール
- ・ 栄養士・管理栄養士部会アドバンスコースの企画案と開催について
審議事項参照のこと

専門能力開発委員会 看護師部会（篠理事）

- ・看護師部会の開催について
2019年は以下のとおり部会を開催したことが報告された。
第1回：2019年7月6日 東京(学会事務局会議室)
第2回：2019年10月5日 東京(学会事務局会議室)

TNT委員会（福島理事）

- ・2019年度の開催状況について
2019年度は15回TNT研修会を開催した。受講者988名であった。2017年より参加費を値上げし受益者負担の方針を進め、ランチョンセミナーを導入して赤字体質の改善を進めた。2020年度も引き続き、ランチョンセミナーの開催を企画し研修会の活動に充てていくことで準備を進めていることが報告された。

【認定・資格検討部門】

認定・資格制度委員会 認定医・指導医・認定歯科医制度（福島理事）

- ・認定医試験結果について
2019年11月3日に施行された認定医認定試験について、合格者41名を決定した。
- ・指導医の認定について
審査を経て、6名が指導医資格を有するものとして決定した。
- ・2019年度 指導医 資格更新審査結果について
審査を経て、22名が指導医更新資格を有することを確認した。
- ・2019年度 指導医 終身認定移行者について
第9章 認定医・指導医の認定証（更新）第21条に基づき、指導医からの2名を終身認定移行者とした。
- ・2019年度 認定医 資格更新審査結果について
審査を経て、27名が認定医更新資格を有することを確認した。
- ・2019年度 認定医 終身認定移行者について
第9章 認定医・指導医の認定証（更新）第21条に基づき、認定医からの1名を終身認定移行者とした。
- ・認定歯科医試験結果について
2019年11月3日に施行された認定歯科医認定試験について、合格者5名を決定した。

認定・資格制度委員会 専門療法士制度（三原理事）

- ・2019年度 NST 専門療法士認定試験結果の報告について
藤田保健衛生大学 松井敏和 名誉教授のご協力により、本試験の信頼性について検討していただいた。その結果、信頼係数 α 値は0.87と極めて高い数値であった。受験申請者1,100名（前年より-25名）のうち、受験者数は1,025名（前年より-15名）であった。全受験者数の平均点は67.34点と昨年の66.51点を上回った。合否判定委員会で審議し、合格者数は872名（合格率は85.07%）となった。
- ・2015年認定のNST 専門療法士の認定更新について
更新申請受付は1,408名、未更新者は297名であった。更新認定者は1,400名であった。
- ・2019年度暫定臨床栄養代謝専門療法士認定について
2019年5月20日～7月末日(消印有効)にて、暫定臨床栄養代謝専門療法士認定申請を受け、審査対象として、425件の申請となった。同認定制度は専門療法士の上部資格として自らが専

門とする一領域を選択し取得申請を行う制度であるが、暫定条件は、専門療法士資格取得後、更新認定が1回以上されていること、認定資格取得後、自らが専門とする領域に関して筆頭演者としての発表があることを条件としているが、第1回の暫定認定審査を行ったところ選択領域の発表内容として認められないものもあり、暫定認定条件を満たしていないものと判定し、不合格とした。

第1回暫定認定合格者：374名、不合格者：51名

- ・2019年度認定教育施設新規および更新について
更新対象30施設のうち、30施設が更新の手続きを行い、引き続き認定教育施設として認定された。新規の認定教育施設は9施設あり、同様に認定された。
- ・2019年度認定試験ワーキンググループについて
2018年度より認定委員会は認定試験ワーキンググループとして再編成し、試験問題作成担当(試験当日の試験官担当兼務)、試験問題選択担当(症例報告書の審査兼務)として活動した。第7回定時社員総会にて委員名を公開し2019年度の試験業務の終了とする。
- ・学会の認める全国学会・地方会・研究会について
2019年度の「学会の認める全国学会・地方会・研究会」への申請はなかった。
2020年度は、NST専門療法士認定資格の更新維持を保つため「学会の認める全国学会・地方会・研究会」における地方会・研究会を対象に活動調査を行う予定である。
- ・2020年NST専門療法士更新必須セミナーについて
第1回：2月27日(木) 第35回学術集会 みやこめっせ(定員700名) →e-Learningへ
第2回：4月26日(日) 大阪国際会議場(定員550名)
第3回：5月17日(日) 京都国際会館 アネックスホール(定員570名)
第4回：10月11日(日) パシフィコ横浜(定員380名)
 1. 祖父江和哉：重症患者に対する栄養療法
 2. 高増哲也：病態ごとにみる小児の栄養療法
 3. 吉田貞夫：高齢者のサルコペニア、リハビリテーションと栄養管理
 4. 野上哲史：腎疾患の栄養管理
 5. 三原千恵：NST専門療法士認定制度、特に更新制度について
- ・2020年認定試験について
2020年10月25日(日)に京都国際会館で開催する予定であることが報告された。認定医・認定歯科医も同日開催予定。

NST委員会(中瀬理事)

- ・2019年度NST委員会活動報告について
 - 1) NST委員会活動目標：各種委員会の再編に伴い当委員会も2019年度の活動として以下の新規目標を策定した。
 - 2) NSTフォーラム開催計画：第35回日本臨床栄養代謝学会学術集会におけるNSTフォーラムを計画した。テーマは「極めよう！NSTの進むべき道」とし、2月27日午後、第1会場で開催する。
- ・NST稼働施設認定について
 - 1) 認定基準の確認を行った。栄養評価件数、回診件数、症例検討件数不足などの課題についても協議した。2019年10月27日(委員会審査)、2020年1月18日(委員長最終確認)
新規：申請19施設 合格19施設
更新：申請施設数358施設 合格344施設、不合格10施設・辞退4施設、未申請115施設
- ・NST活動のアウトカムに関する文献検索について
2019年12月26日～2020年1月10日に委員で手分けして収集。結果を整理して保険委員会と

共有する。

【学術部門】

編集委員会（佐々木副理事長）

・年度別掲載状況（過去5年）について（2019年12月31日現在）

■日本静脈経腸栄養学会雑誌

年	巻	原著	症例報告	総説 (特集)	臨床 経験	施設 近況報告	研究 報告	地方会 抄録	学会から の報告	計
2015	30	19	9	34	9	3	4	33	0	111
2016	31	15	10	32	4	1	2	33	0	97
2017	32	20	12	33	13	6	6	34	0	124
2018	33	18	5	28	6	4	4	34	0	99
2019	34	0	0	38	0	0	0	0	0	38

■e-journal「学会誌 JSPEN」

年	巻	原著	症例報告	臨床 経験	施設 近況報告	研究 報告	地方会 抄録	プロジェ クト報告	用語 解説	学会から の報告	計
2019	1	18	14	2	3	2	30	1	3	2	75

・査読状況について（2019年1月1日～12月31日）

オンライン投稿（Editorial Manager®）

新規投稿数 75本

採用 26本 著者修正中 24本 査読中 15本

査読後再投稿なし 2本 掲載不適当 6本 ESPEN報告 2本

・原稿受領から採用決定までの日数について

該当論文26本の平均日数107日（最短 26日／最長 286日）

採択決定後、6カ月以内に掲載している。

・電子ジャーナル（J-STAGE）について

■日本静脈経腸栄養学会雑誌

34巻1号 2019年4月20日 公開 34巻2号 7月20日 公開

33巻3号 9月20日 公開 34巻4号 11月20日 公開

33巻5号 2020年1月20日 公開予定

■e-journal「学会誌 JSPEN」

Vol.1 No.1 2019年8月16日 公開 Vol.1 No.2 10月30日 公開

Vol.1 Sup.1 9月6日 公開 Vol.1 Sup.2 2020年1月24日 公開

・座長推薦論文について

JSPEN2019では、該当演題の座長より72件の推薦をいただき、メールで投稿の案内をおこなった。現在までに6本の論文が投稿されている。JSPEN2018では、57件の推薦に対して、10本の論文が投稿され、4本（原著3本、症例報告1本）の掲載が確定している。今回、第35回日本臨床栄養代謝学会学術集会においても座長推薦の依頼を実施する。

・ANNALS OF NUTRITION AND METABOLISM(ANM誌)について

2017年10月より本学会ホームページにて購読案内と日本語に訳した投稿規程を掲載し、会員専用ページ経由で同誌のオンライン購読が開始されている。日本からもEditorial Board Memberが就任しており、日本の臨床栄養学の研究成果を海外へ情報発信がより活発に活性化するよう

努めている。

- ・学会誌「JSPEN」投稿規程の一部変更について

【投稿内容】下線部の部分を加えることが報告された。

本誌に掲載を希望して投稿する論文は、栄養学の進歩に寄与する創意に富んだもので他誌に発表されていないものに限る。投稿論文には指導者（できれば本学会学術評議員であること）の推薦書を添えることが望ましい。さらに 1) 二重投稿及び同時投稿でない旨ならびに 2) 利益相反申告の内容が正しいことを明記し、著者全員の署名した書面、投稿論文チェックリストを添付すること。なお、投稿論文のすべての著作権（著作権法第 27 条及び第 28 条が定める権利を含む。）は、掲載決定日に日本臨床栄養代謝学会に譲渡されたものとし、投稿論文の著作権者は、投稿論文に関する著作者人格権を行使しないものとする。投稿論文の転載の許諾等は理事長がこれを決する。

- ・e-journal「学会誌 JSPEN」における特集について

e-journal「学会誌 JSPEN」に掲載する特集号について、本会の臨床栄養コンセンサス検討委員会を構成する WT001～WT009 各領域 WT 長に、各領域に関する企画・テーマにて執筆を依頼を行った。

- ・論文の査読について

e-Journal「学会誌 JSPEN」の論文査読にて、査読のレベルが著しく不足している方、査読期限を守らない方は、査読者リストから外し、査読の質の向上を図る。また、代議員は全員を査読者として登録しているが、査読を断る代議員がおられることを社員総会にて報告し、引き続きの協力を依頼する。

- ・「静脈経腸栄養テキストブック」改定版の発行について

2020 年 1 月より本会の名称が変更となったこと、同テキストブック発行から 3 年が経過することから、学会名称変更について記載した帯が作成された。また、内容を改定した「一般社団法人日本臨床栄養代謝学会 静脈経腸栄養テキストブック」の企画検討が、第 36 回日本臨床栄養代謝学会学術集会に合わせた発行予定として開始された。

用語委員会（中瀬理事）

- ・日本医学会分科会用語委員会報告について

日本医学会分科会用語委員会出席（於 2019 年 12 月 17 日日本医師会館）：日本医学会分科会用語委員会遺伝学用語に関するワーキンググループから「顕性」「潜性」に置き換える旨報告された。さらに ICD-11 和訳作業、日本医学会医学用語辞典 WEB 版のメンテナンス、「奇形」を含む医学用語書き換えワーキンググループなどの報告を受けた。

学術集会実践支援委員会 記念 AWARD 選考 WG（山中理事）

- ・大柳治正記念学術振興アワード選考委員会 2019 年受賞者と関連講演者について

選考委員会選考基準にしたがい、受賞者・関連講演者を決定した。第 35 回学術集会の受賞講演および関連講演として収録対応を行う。

受賞講演：入山圭二先生（長島中央病院）

関連講演：宇佐美眞先生（甲南女子大学 医療栄養学部 医療栄養学科）

関連講演：福島恵造先生（神戸学院大学 薬学部 臨床薬物動態学研究室）

- ・小越章平記念 Best Paper in The Year 選考委員会 2019 年選考結果報告

選考委員会選考基準にしたがい、受賞論文を決定した。第 35 回学術集会の受賞講演収録対応を行う。第 35 回学術集会の受賞者記念講演において、発表いただく予定である。

奥川喜永（三重大学 消化管・小児外科学講座）

「Circulating miR-203 derived from metastatic tissues promotes myopenia in colorectal

cancer patients]

学術集会実践支援委員会 学術 AWARD 選考 WG (鈴木理事)

- ・ JSPEN YOUNG DOCTORS AWARD 2020 受賞者について
2019年9月1日から9月30日までの募集期間において4名からの応募があり、選考に際し学術 AWARD 選考 WG を開催し、審査の結果、3名の受賞者を決定した。
受賞者①：大邊寛幸(東京大学大学院医学系研究科公共健康医学専攻 臨床疫学・経済学分野)
タイトル：重症頭部外傷患者に対する早期経腸栄養の効果：DPC データを用いた傾向スコアマッチング研究
受賞者②：大槻郁人(札幌医科大学附属病院 麻酔科)
タイトル：低栄養リスクを有する急性期脳卒中患者に対する栄養管理の有効性についての検討-ランダム化比較試験-
受賞者③：匂坂正孝(医療法人匂坂会サキサカ病院)
タイトル：誤嚥性肺炎や消化管合併症を有する高齢者に対する安全な経腸栄養プロトコル確立に向けた検討
- ・ YOUNG INVESTIGATOR AWARD 2020 受賞者について
2019年9月1日から9月30日までの募集期間において3名からの応募があり、選考に際し学術 AWARD 選考 WG を開催し、審査の結果、3名の受賞者を決定した。
受賞者①：瀬部真由(徳島大学大学院 代謝栄養学分野)
タイトル：脂質の過剰摂取は関節リウマチ病態の増悪・骨格筋量の減少を引き起こす
受賞者②：古屋宏章(昭和大学薬学部 社会健康薬学講座 社会薬学部門)
タイトル：新規格栄養チューブ(ISO 80369-3)における細菌汚染の経時的変化の検証
受賞者③：大原雄希(札幌医科大学附属病院 薬剤部)
タイトル：ポリファーマシーが経口摂取量に及ぼす影響
- ・ JSPEN スカラーシップ賞受賞者について
2019年9月1日から9月30日までの募集期間において3名からの応募があり、選考に際し学術 AWARD 選考 WG を開催し、審査の結果、3名の受賞者を決定した。
受賞者①：田中拓樹(福岡青洲会病院 リハビリテーション部)
タイトル：回復期リハビリテーション病棟における高齢大腿骨近位部骨折術後患者の必要エネルギーを推定する

学術集会実践支援委員会 フェロウシップ選考 WG (三原理事)

- ・ フェロウシップ賞受賞者選定について
 - 1) 2019年の横浜での第34回学術集会応募者セッションにおいて発表された候補者の中から、厳選な審査の結果、以下の1名を受賞者として選定した。畠山先生には、本年の第35回学術集会の受賞者講演において研究成果をご発表いただく予定であった。
畠山淳司先生(横浜市立みなと赤十字病院 集中治療部)
「滅菌密閉型容器使用下での経腸栄養持続投与時の細菌汚染の検証：前向き介入研究」
 - 2) 第35回学術集会では、演題公募に際して本賞への応募を希望した18題から抄録にて7名を選考し、応募者セッションにて発表予定であったが、集合型開催の中止に伴い本年の選考方法については別途審議事項として提出することが報告された。

【臨床栄養推進部門】

ガイドライン委員会 (小谷理事)

- ・ 2019年度第1回ガイドライン委員会報告について

2019年5月の委員会再編後の活動は、主に Slack を利用して活動を進めている。2020年より具体的な制作過程に入ることから第1回委員会を神戸大学にて開催し、以下の内容について協議した。

- 1) ガイドライン作成手法の概略のレクチャー(内容は省略)
 - 2) 役割分担の協議
 - 3) ガイドラインの構成について (①GRADE パート、②narrative review パート)
 - 4) ガイドライン作成工程のタイムフロー
 - 5) 今後の予定について
- ・ガイドライン作成の方向性と進捗状況について資料に基づき報告がされた。
 - ・白石 好委員の委員会委員の辞退について
委員就任時は通常勤務であったが、公務の関係から委員辞退のお申し出があり小谷委員長の判断で受諾したことが報告された。

臨床栄養コンセンサス検討委員会 9領域 WT (犬飼理事)

- ・2019年度活動報告について
9領域の現状の活動内容について報告がされた。

P001 REDCap プロジェクト (飯島理事)

- ・在宅半固形栄養経管栄養法指導管理料の算定に関する EDC を用いた症例登録型データベース構築について
大規模かつ多施設によるレジストリ型データベースを活用し、平成30年度診療報酬改訂で新設の在宅半固形栄養経管栄養法指導管理料の算定患者の実態を把握し、転帰を評価後改訂の検討に加え、管理面での標準化を図る目的で事業化が承認された。今年度は研究計画を完成させ、必要な倫理審査を受け、レジストリ型データベースとして REDCap システムと契約を締結しキックオフした。参加施設は募集中であることが報告された。

P003 誤接続防止対策プロジェクト (丸山理事)

- ・新経腸栄養コネクタ IS080369-3 の情報提供と導入方法に向けての会員への情報提供と導入方法の紹介について
第34回学術集会および各支部学術集会にて IS080369-3 の情報提供を行い、会員への周知を行った。また、新経腸栄養コネクタ IS080369-3 の情報提供と導入方法に向けての会員への情報提供と導入方法の紹介と第34回学術集会および JSPEN 各支部学術集会、JSPEN 主催の教育セミナー(コース)にて IS080369-3 の情報提供を行い、会員への周知を行った。
- ・新経腸栄養コネクタ IS080369-3 の研究報告、論文化について
e-journal「学会誌 JSPEN」に以下のとおり研究報告を掲載されたことが報告された。
 - 1) 半固形化栄養剤注入における新誤接続防止コネクタ (IS080369-3) のユーザビリティ評価 ―ヒトによる官能評価試験―、JSPEN 1(2):98-103, 2019
 - 2) ミキサ一食における新誤接続防止コネクタ (IS080369-3) のユーザビリティ評価 ―ヒトによる官能評価試験―、JSPEN 1(4): 310-316, 2019

その他 (事務局)

- ・社員総会(代議員会)、総会・学術評議員会欠席における正当な理由に関する問い合わせについて
社員総会および総会・学術評議員会の開催要件にはそれぞれ、「正当な理由なく」との条文上の文言がある。この「正当な理由」とは何を指すのか。との問合せが事務局に届いた。今後、関連委員会でのご検討をお願いしますとの報告がなされた。

X. 第 38 回 学術集会会長選出

第 38 回（次々回）学術集会会長に、小谷穰治理事が立候補され、選出された。

XI. 第 36 回（次回）学術集会会長挨拶

第 36 回（次回）学術集会会長の鍋谷圭宏理事より、会期：2021 年 2 月 18 日（木）～19 日（金）として、神戸国際会議場・国際展示場・ポートピアホテルにて、開催することが報告された。

XII. 第 37 回（次々回）学術集会会長挨拶

第 37 回（次々回）学術集会会長の飯島正平理事より、会期：2022 年 2 月 10 日（木）～11 日（金）として、パシフィコ横浜にて、開催することが報告された。

○2020 年度第 1 回臨時理事会の開催について

第 35 回日本臨床栄養代謝学会学術集会の事後処理と対応、2020 年度上半期の支部学術集会対応、JSPEN 主催セミナーの対応、認定資格制度の実施・資格申請など今後の事業方針の協議のため、2 月 27 日（木）15：00 より本会議室にて、第 1 回臨時理事会を開催することになった。

以 上

2020 年 2 月 26 日（水）